

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間の尊厳と自立		介護福祉学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	阿部 義彦
授業の概要				
「人間の尊厳と自立」では、介護福祉を实践するために必要な人間に対する基本的理解を身につける。福祉理念の歴史の移り変わりを学ぶことで、人間の尊厳・人権尊重・権利擁護の考え方を身につける。利用者主体の観点から自立の考え方と自立生活を理解して、その人らしい生活を支える必要性を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
人権思想・福祉理念の歴史の移り変わりを理解する。 人間の尊厳・人権尊重・権利擁護の考え方を身につける。 人間にとっての自立の意味と、利用者主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
テキストをよく読んでおくこと。 予習と復習を行うこと。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	自己紹介 「人間の尊厳と自立」の概要		
2	人間の尊厳と利用者主体	人間を理解するということ 尊厳の理念と利用者主体		
3	人権思想の潮流とその具体化	人権の明文化、人権のとらえ方 自由権、生存権、世界人権宣言		
4	人権や尊厳に関する日本の諸規定	日本国憲法(幸福追求権、生存権) 社会福祉法の理念、介護保険法の目的、障害者総合支援法の目的		
5	人権と福祉理念の移り変わり①	人は人をどう援助してきたか		
6	人権と福祉理念の移り変わり②	戦後の新たな福祉のあり方への模索		
7	人権と福祉理念の移り変わり③	ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン QOL, 生命倫理		
8	人権尊重と権利擁護①	利用者の人権と生活		
9	人権尊重と権利擁護②	権利侵害の背景 権利擁護の視点		
10	自立の概念の多様性	いろいろな視点から見た自立		
11	自立とは	自立と自律 精神的自立		
12	介護を必要とする人の自立と自立支援①	自立支援に必要な視点		
13	介護を必要とする人の自立と自立支援②	ICFの考え方 ICIDHからICFへ		
14	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援との関係性	尊厳を守る介護の中心にある自立支援		
15	まとめ 期末テスト	「人間の尊厳と自立」のまとめ 期末テスト		

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版」中央法規	出席率 課題・レポート 期末試験	10.0% 20.0% 70.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間関係とコミュニケーションI		介護福祉学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	三木 春美
授業の概要				
対人援助関係形成の基礎となる人間関係とコミュニケーションについて学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
自分と他者、そして人間関係について理解する。 コミュニケーションの概念と言語的・非言語的コミュニケーションの特徴・機能を理解する。 対人援助における基本的態度や援助関係のための原則について理解する。 組織におけるコミュニケーションについて理解する。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
テキストをよく読んでおくこと。				
回	テーマ	内 容		
1	人間の誕生と介護の関係	1) 私たち人間は、なぜ介護するのか 2) 人類は、何を獲得してきたのか 3) 介護することは人間らしさの象徴		
2	自分と他者の理解	1) 自分を形成する2つの要素 2) 自分を理解するとは 3) 他者を理解するとは 4) 人間関係形成のために必要なこと		
3	発達心理学からみた人間関係	1) 人間の段階的な発達 2) パーソナリティの発達と人間関係 3) 社会性の発達と人間関係 4) 発達における個人差		
4	社会心理学からみた人間関係	1) 他者とのかかわり 2) 集団とのかかわり 3) 集団のなかの人間関(グループにおける力動性)		
5	人間関係とストレス	1) 日常生活のストレス 2) ストレスにおける個人差 3) ストレス対処行動としてのコーピング 4) 周囲からのソーシャル・サポート		
6	コミュニケーションの概念	1) コミュニケーションの語源 2) マスコミュニケーションとパーソナルコミュニケーション		
7	コミュニケーションの基本構造	1) メッセージ 2) 送り手と受け手 3) コミュニケーションをうながす環境		
8	コミュニケーションの手段	1) 言語的コミュニケーション 2) 非言語的コミュニケーション		
9	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション	1) 人間関係の発展とコミュニケーション 2) 人間関係の後退とコミュニケーション 3) 人間関係とコミュニケーション上の配慮		

10	対人援助関係における基本的態度	1) 受容 2) 共感 3) 傾聴		
11	援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則	1) バイステックによるケースワークの7つの原則の背景 2) クライエントの基本的なニーズ 3) 援助関係を形成するための7つの原則		
12	組織の条件とコミュニケーションの特徴	1) 組織の4つの条件 2) 組織におけるコミュニケーションの特徴		
	組織における情報の流れ	1) トップダウンのコミュニケーション 2) ボトムアップのコミュニケーション 3) 水平的なコミュニケーション		
14	組織において求められるコミュニケーション	1) 報告・連絡・相談する 2) 集団で話し合う（集団討議） 3) 集団でアイデアを生み出す（ブレインストーミング） 4) 説明・提案する（プレゼンテーション）		
15	まとめ テスト	前期のまとめ 試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解 第2版」中央法規		出席率 授業態度 課題・レポート 期末試験	20.0% 10.0% 10.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会の理解 I		介護福祉学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	阿部 義彦

## 授業の概要

個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。  
対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。

## 授業終了時の到達目標

個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会のかかわりや自助・互助・共助・公助の展開について理解できるようにする。地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のため制度・施策を理解できるようにする。社会保障制度の基本的な考え方としくみ、社会保障の現状と課題を理解できるようにする。

実務経験有無	実務経験内容

## 時間外に必要な学修

テキストをよく読んでおくこと。  
予習と復習を行うこと。

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	「社会の理解 I」の概要
2	生活の基本機能	生活の基本機能、社会生活のメカニズム 家庭生活の機能
3	ライフサイクルの変化	生活と働き方の変化 少子高齢化と健康寿命
4	家族の機能と役割	家族の概念とその変容、家族の構造・形態、機能 家族観の多様化
5	社会・組織の機能と役割	社会・組織の概念や機能と役割 グループ支援、組織化
6	地域、地域社会	社会・組織の概念や機能と役割 グループ支援、組織化
7	地域社会における生活支援	生活支援と福祉 自助・互助・共助・公助
8	地域福祉の発展	地域福祉の理念、地域福祉の歴史的展開 地域福祉の推進、災害と地域福祉
9	地域共生社会	地域福祉の理念、地域福祉の歴史的展開 地域福祉の推進、災害と地域福祉
10	地域包括ケア	地域包括ケアの概念 地域包括ケアシステム
11	社会保障の基本的考え方	社会保障の意義と役割、目的と機能
12	日本の社会保障制度の発展	日本の社会保障制度の歴史を学ぶ 社会保障基礎構造改革
	日本の社会保障制度の仕組み	社会保障制度の体系としくみ、年金保険、医療保険、介護保険 雇用保険、労働災害補償保険
14	現代社会と社会保障制度	少子高齢化の進行、財政問題、給付と負担の関係 社会保障制度の持続可能な道、今後の課題

15	まとめ 期末テスト	「社会の理解Ⅰ」のまとめ 期末テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解 第2版」中央法規		出席率 課題・レポート 期末試験	10.0% 20.0% 70.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護過程 I		介護福祉学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	三木 春美

## 授業の概要

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開できる基本的な考え方や実践で展開することができる能力を養う。

## 授業終了時の到達目標

介護過程の意義を理解し、利用者の課題を抽出し、個別介護計画書の作成を行うことができる。  
介護計画書に沿って介護を行う根拠を説明することができる。

実務経験有無	実務経験内容

## 時間外に必要な学修

事前にテキストを熟読しておくこと

回	テーマ	内容
1	生活の過程	利用者の生活上の課題
2	介護過程の意義と基礎的理解1	介護過程の意義・目的 プロセス
3	介護過程の意義と基礎的理解2	生活支援における介護過程の必要性
4	情報収集とアセスメント	情報を集める 情報の解釈・関連づけ・統合化
5	アセスメントと介護計画の関連性	介護過程とICF
6	直接的な情報収集	利用者の表情やしぐさなどから推察する
7	間接的な情報収集	介護記録・その他の職種の記録からの情報収集
8	生活歴の理解	その「ひと」の生活の歴史とは
9	医学モデルの視点 ICIDHの理解	ICIDHの視点
10	生活モデルの視点 環境因子、個人因子について	環境因子 個人因子の理解
11	ICFの考え方に基づく介護計画の立案①	介護過程の立案 その「ひと」をみる
12	ICFの考え方に基づく介護計画の立案②	介護過程の立案
	思考過程	様々な場面での支援内容の理解
14	介護計画の作成	個別ケア提供における介護計画の意義 立案方法
15	まとめ 試験	介護計画

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規 出版 適宜資料 プリント	出席率 課題・レポート 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護過程Ⅱ		介護福祉学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	三木 春美

## 授業の概要

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開できる基本的な考え方や実践で展開することができる能力を養う。

## 授業終了時の到達目標

介護過程の意義を理解し、利用者の課題を抽出し、個別介護計画書の作成を行うことができる。  
介護計画書に沿って介護を行う根拠を説明することができる。

## 実務経験有無

## 実務経験内容

## 時間外に必要な学修

教科書を読み、復習、予習

回	テーマ	内容
1	生活の過程	利用者の生活上の課題
2	介護過程の意義と基礎的理解1	介護過程の意義・目的 プロセス
3	介護過程の意義と基礎的理解2	生活支援における介護過程の必要性
4	情報収集とアセスメント	情報を集める 情報の解釈・関連づけ・統合化
5	アセスメントと介護計画の関連性	介護過程とICF
6	直接的な情報収集	利用者の表情やしぐさなどから推察する
7	間接的な情報収集	介護記録・その他の職種の記録からの情報収集
8	生活歴の理解	その「ひと」の生活の歴史とは
9	医学モデルの視点 ICIDHの理解	ICIDHの視点
10	生活モデルの視点 環境因子、個人因子について	環境因子 個人因子の理解
11	ICFの考え方に基づく介護計画の立案①	介護過程の立案 その「ひと」をみる
12	ICFの考え方に基づく介護計画の立案②	介護過程の立案
	思考過程	様々な場面での支援内容の理解
14	介護計画の作成	個別ケア提供における介護計画の意義 立案方法
15	まとめ 試験	介護計画

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規 出版 適宜資料 プリント	出席率 期末試験 課題・レポート	10.0% 80.0% 10.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護の基本 I		介護福祉学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	6単位(90時間)	必須	高吉 亮平
授業の概要				
介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う				
授業終了時の到達目標				
介護の基本的な知識・技術を学び、介護福祉士としての役割、倫理について理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		特別養護老人ホーム 介護職員として6年の実務経験あり		
時間外に必要な学修				
教科書を熟読しておく				
回	テーマ	内容		
1	介護福祉を取り巻く状況①	介護の成り立ちについて理解する		
2	介護福祉を取り巻く状況②	介護福祉士を取り巻く状況について理解する		
3	介護福祉を取り巻く状況③	介護ニーズの複雑化や多様化など介護福祉を取り巻く状況について理解する		
4	介護福祉の歴史①	老人福祉法が成立した社会的背景を理解する		
5	介護福祉の歴史②	介護保険法によって規定される介護の範囲を理解する		
6	介護福祉の歴史③	介護福祉士の定義規定の変遷について理解する		
7	介護福祉の基本理念①	介護福祉の基本となる理念を理解する		
8	介護福祉の基本理念②	尊厳を支える介護にかかわるノーマライゼーション、QOLなどの考え方を理解する		
9	介護福祉の基本理念③	自立を支える介護にかかわる自己決定や利用者主体について理解する		
10	介護福祉の基本理念④	自立を支える介護にかかわる自己決定や利用者主体について理解する		
11	社会福祉及び介護福祉士法①	社会福祉士及び介護福祉士法の概要を理解する		
12	社会福祉及び介護福祉士法②	介護福祉士が守るべき義務規定の意味を学ぶ		
	介護福祉士の活動の場と役割①	地域包括ケアシステムについて理解する		
15	介護福祉士の活動の場と役割②	介護予防における介護福祉士の役割と機能を理解する		
16	介護福祉士の活動の場と役割③	医療的ケアなど新たな介護福祉士の役割と機能を理解する		

17	介護福祉士の活動の場と役割④	看取りにおける介護福祉士の役割と機能を理解する
18	介護福祉士の活動の場と役割⑤	災害時における介護福祉士の役割と機能を理解する
19	介護福祉士に求められる役割とその養成①	介護ニーズの変化と、介護福祉士に求められる役割を理解する
20	介護福祉士に求められる役割とその養成②	求められる介護福祉士像を理解する
21	介護福祉士に求められる役割とその養成③	各領域での学びを構造的に理解する
22	介護福祉士に求められる役割とその養成④	チームリーダーとしての介護福祉士像を理解する
23	介護福祉士を支える団体①	介護福祉士を支える職能団体や養成施設協会の働きを理解する
24	介護福祉士を支える団体②	専門的な技術・知識を高める生涯研修や、各学会の活動について理解する
25	介護福祉士の倫理①	介護に携わる人が持つべき職業倫理を学ぶ
26	介護福祉士の倫理②	普遍的な倫理判断の視点を学び、それがさまざまな介護の場面でどう活かせるかを考える
27	日本介護福祉士会の倫理綱領①	介護福祉士に求められる職業倫理について理解する
28～ 29	日本介護福祉士会の倫理綱領②	日本介護福祉士会の倫理綱領と行動規範を例に、介護福祉の専門性と倫理を理解する
30	介護福祉における自立支援①	自立支援の具体的な考え方を理解する
31	介護福祉における自立支援②	利用者の意思決定を支える方法について理解する
32	介護福祉における自立支援③	自立を支援するための環境整備について理解する
33～ 34	ICFの考え方	ICFにおける生活機能と各因子との相互作用について理解する
35	自立支援とリハビリテーション①	自立支援とリハビリテーションの基本的な考え方について理解する
36	自立支援とリハビリテーション②	リハビリテーションを考えるうえでの障害の理解と評価について理解する
37	自立支援とリハビリテーション③	リハビリテーションのなかでの自立のとらえ方について理解する
38	自立支援とリハビリテーション④	リハビリテーションのなかでの介護福祉士の役割について理解する
39	自立支援と介護予防①	自立支援と介護予防の基本的な考え方を理解する
40	自立支援と介護予防②	介護予防の種類と展開について理解する
41	自立支援と介護予防③	高齢者の身体特性と介護予防について理解する
42	自立支援と介護予防④	介護予防の実際について理解する

43	自立支援と介護予防⑤	介護予防のなかで介護福祉士の役割について理解する		
44	介護の基本 I まとめ	介護の基本について総まとめ		
45	まとめ テスト			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 I 第2版 中央法規 出版 適宜資料 プリント	介護福祉士養成講座3 介護の基本	出席率 課題・レポート 授業態度  確認テスト	10.0% 20.0% 10.0%  60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護の基本Ⅱ		介護福祉学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	高吉亮平

## 授業の概要

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解する。  
介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。

## 授業終了時の到達目標

介護福祉士の倫理について理解を深める。  
介護福祉を必要とする人を理解する。  
介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみを理解する。

## 実務経験有無

## 実務経験内容

## 時間外に必要な学修

テキストの事例等をよく読んでおくこと。

回	テーマ	内容
1	私たちの生活の理解①	1. 生活とは何か 1) 生活とは 2) 生活と時間 3) 生活と空間 4) 生活とリズム
2~3	私たちの生活の理解②	2. 生活にとって大切な要素 1) 家庭 2) 地域 3) 社会 3. 生活の特性
4~5	介護福祉士を必要とする人たちの暮らし	1. 介護福祉を必要とする人の「暮らし」を理解すること 1) 暮らし=歴史と、その多様性を理解する 2) 介護福祉職の利用者理解の視点 2. 介護福祉士を必要とする高齢者の暮らし
6	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解	1. 「その人らしさ」とは何か 2. 「その人らしさ」の背景 3. 「その人らしさ」の介護福祉における活用 4. 「生活ニーズ」の理解 5. 個々の生活ニーズにどこまでこたえるか
7	生活のしづらさの理解とその支援	1. 生活のしづらさについて考える 1) 生活のしづらさへの誤った支援を防ぐ 2. 家族介護者への支援 1) 介護福祉士の介護者に対する支援の根拠 2) 家族介護者に対する理解
8	利用者の生活を支えるしくみ	1. 地域共生社会 2. 地域包括ケアシステム
9~11	生活を支えるフォーマルサービス(社会的サービス)とは	1. 高齢者のためのフォーマルサービスの概要 1) 介護保険制度におけるサービスの種類 2) 介護福祉士に求められる支援の視点 2. 障害者のためのフォーマルサービスの概要 1) 障害者総合支援法によるサービス

12	生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス）とは	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 費用負担による区分</li> <li>2. フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係</li> <li>3. インフォーマルサービスの種類</li> <li>4. インフォーマルサービスの提供者</li> <li>5. 介護福祉士に求められる支援の視点</li> </ol>
13～14	地域連携	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域連携の意義と目的 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域連携の意義と目的</li> <li>2) 地域連携の形</li> <li>3) 地域連携における介護施設の役割</li> </ol> </li> <li>2. 地域連携にかかわる機関の理解</li> </ol>
15～16	多職種連携・協働の必要性①	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多職種連携・協働とは <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 連携・協働とは</li> <li>2) 目的・目標の共有</li> </ol> </li> <li>2. 多職種連携・協働を要請する社会の動き <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 少子高齢化の進行</li> </ol> </li> </ol>
17～18	多職種連携・協働の必要性②	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. なぜ、多職種連携・協働が必要なのか <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 慢性疾患を有する高齢者の増加</li> <li>2) 介護保険制度の創設</li> <li>3) 介護保険制度の改正</li> <li>4) 切れ目のないサービス提供</li> </ol> </li> </ol>
19	中間まとめ	これまでの介護の基本Ⅱまとめ
	多職種連携・協働に求められる基本的な能力①	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護実践の場で多職種連携・協働が必要とされる意味</li> <li>2. 多職種連携・協働のためのチームづくり <ol style="list-style-type: none"> <li>1) チームづくりの意義</li> <li>2) チーム構成メンバーとしての役割</li> <li>3) 支援の目標・目的の一致をはかるためのチームづくり</li> </ol> </li> </ol>
21	多職種連携・協働に求められる基本的な能力②	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 多様な視点と受容を必要とする協働 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 多様な視点とは</li> <li>2) コップのとらえ方が意味すること</li> </ol> </li> <li>4. 課題解決に対する多職種のかかわり</li> <li>5. 多職種協働を成功させるための介護技術と知識</li> </ol>
22	多職種連携・協働に求められる基本的な能力③	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 多職種協働とホスピタリティ的視点 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ホスピタリティの定義</li> <li>2) 「信頼関係の構築」「相互利益」と多職種協働との関係</li> </ol> </li> <li>7. 多職種協働に求められるコミュニケーション能力</li> </ol>
23	保険・医療・福祉職の役割と機能①	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉士 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 社会福祉士とは</li> <li>2) 社会福祉士になるには</li> <li>3) 社会福祉士の役割・機能</li> </ol> </li> <li>2. 精神保健福祉士</li> </ol>
24	保険・医療・福祉職の役割と機能②	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 医師 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医師とは</li> <li>2) 医師になるには</li> </ol> </li> <li>5. 歯科医師 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 歯科医師とは</li> </ol> </li> </ol>
25	保険・医療・福祉職の役割と機能③	<ol style="list-style-type: none"> <li>8. 理学療法士 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 理学療法士とは</li> <li>2) 理学療法士になるには</li> <li>3) 理学療法士の役割・機能</li> </ol> </li> <li>9. 作業療法士</li> </ol>
26	保険・医療・福祉職の役割と機能④	<ol style="list-style-type: none"> <li>13. 公認心理士 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 公認心理士とは</li> <li>2) 公認心理士になるには</li> <li>3) 公認心理士の役割・機能</li> </ol> </li> <li>14. 薬剤師</li> </ol>

27	多職種連携・協働の実際①	1. 専門職連携実践とは何か 2. 多職種における地域での連携・協働 3. 特別養護老人ホームの連携の実態調査から 1) 介護福祉職とほかの各専門職の知識の共有 2) 介護福祉職の観察情報の提供後の各専門職の診察・観		
28	多職種連携・協働の実際②	4. 自立支援介護における多職種連携の実際 1) 有料老人ホーム：Aさんの歩行自立まで 2) 特別養護老人ホーム：Bさんの経管栄養から常食への移行の取り組み		
29	介護の基本Ⅱの総まとめ	まとめ		
30	まとめ テスト	後期のまとめ 試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 第2版		出席率 授業態度 課題・レポート 期末試験	20.0% 10.0% 10.0% 60.0%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション技術 I		介護福祉学科/1年	2024/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	三木 春美

## 授業の概要

利用者1人ひとりの心身の状況に応じたコミュニケーション技法について学び、習得する。  
チームのコミュニケーションに必要な記録や報告等について学び、その技術を習得する。

1. 介護におけるコミュニケーションの基本
2. 介護を必要とするひとへのコミュニケーション技法
3. 介護における家族へのコミュニケーション技法
4. 障害の特性に応じたコミュニケーション
5. 介護におけるチームのコミュニケーション

## 授業終了時の到達目標

介護を必要とするひとへの理解、援助的関係、関わる上でのコミュニケーション技法を理解できる。また、利用者を取り巻く家族、多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。チームにおけるコミュニケーションに必要な記録や報告等についての技術を身につける。

## 実務経験有無

## 実務経験内容

## 時間外に必要な学修

事前にテキストを熟読しておくこと

回	テーマ	内容
1	【介護におけるコミュニケーションの基本】 コミュニケーションとは	介護におけるコミュニケーションの意義と目的 介護におけるコミュニケーションの展開過程 マズローの基本的欲求について
2	【介護におけるコミュニケーションの基本】 コミュニケーションの対象者について	コミュニケーションの果たす役割 介護福祉職の職務とコミュニケーション コミュニケーション支援の対象
3	【介護におけるコミュニケーションの基本】 援助関係とコミュニケーション	援助関係の特徴 援助関係を構築するための原則
4	【介護を必要とするひとへのコミュニケーション技術】 話を聞く姿勢、感情を察する技法	傾聴 受容 共感
5	【介護を必要とするひとへのコミュニケーション技術】話を聞く姿勢、感情を察する技法	パーソナルスペース 心理的距離 精神分析
6	【介護を必要とするひとへのコミュニケーション技術】話を聞く姿勢、感情を察する技法	言語・非言語 話を聴く態度 感情を察する技法 (グループワーク)

7	【介護を必要とするひとへのコミュニケーション技術】説得と同意、意欲を引き出す技法	利用者の自立した生活を実現するための動機づけ ・外発的動機づけ ・内発的動機づけ		
8	【介護を必要とするひとへのコミュニケーション技術説得と同意、意欲を引き出す技法】	ものの見方の多様性と固定観念 解決思考アプローチ		
9	介護を必要とするひとへのコミュニケーション技術】説得と同意、意欲を引き出す技法	意思決定を支援するためのコミュニケーション リフレーミング		
10	【介護を必要とするひとへのコミュニケーション技術】集団におけるコミュニケーション技術	「集団」でコミュニケーションをはかる意義 「集団」とは 「集団」の種類		
11	【介護を必要とするひとへのコミュニケーション技術】集団におけるコミュニケーション技術	「集団運営」 ・自由な集団のグループ運営 ・意図的な集団のグループ運営		
12	【介護を必要とするひとへのコミュニケーション技術】集団におけるコミュニケーション技術	回想法 高齢者とのコミュニケーション場面		
	【家族への助言・指導・調整】 家族への助言・指導・調整	家族の存在の重要性 支援のパートナー		
14	【家族への助言・指導・調整】 家族への助言・指導・調整	家族介護負担感 コミュニケーションによって把握すべき家族の気持ち インフォームド・コンセント 家族の意向表出の支援 相談の場づくり		
15	【家族への助言・指導・調整】 家族への助言・指導・調整 試験	家族の相談に応じるコミュニケーション 業務としての家族への指導 利用者、家族の意向の調整		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座 5コミュニケーション技術 中央法規 出版 適宜資料		出席率 期末試験 課題・レポート	10.0% 80.0% 10.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション技術Ⅱ		介護福祉学科/1年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	三木 春美

## 授業の概要

コミュニケーション障害について理解し、特性に応じた支援について学習する。  
介護におけるチームのコミュニケーションについて学習する。

## 授業終了時の到達目標

さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援について理解する。  
報告、記録、会議などのチームのコミュニケーション技術を身につける。

## 実務経験有無

## 実務経験内容

## 時間外に必要な学修

テキストをよく読んでおくこと。

回	テーマ	内容
1	コミュニケーション障害への対応の基本	コミュニケーション障害とは アセスメント、コミュニケーション支援
2	視覚障害	視覚障害の特徴と生活への支援 視覚障害のある人に対するコミュニケーション技術
3	聴覚障害	聴覚障害の特徴と生活への支援 聴覚障害のある人に対するコミュニケーション技術
4	構音障害、失語症	構音障害・失語症の特徴と生活への支援 構音障害・失語症のある人に対するコミュニケーション技術
5	認知症	認知症の特徴と生活への支援 認知症のある人に対するコミュニケーション技術
6	うつ、統合失調症	うつ・統合失調症の特徴と生活への支援 うつ・統合失調症のある人に対するコミュニケーション技術
7	その他の障害	知的障害、発達障害、高次脳機能障害、重症心身障害
8	対象者の特性に応じたコミュニケーション	前半のまとめ
9	チームのコミュニケーションとは	チーム力 実践方法
10	報告・連絡・相談	報告・連絡・相談 目的と流れ
11	記録の技術	記録の意義・目的 記録の種類、方法と書き方
12	会議・議事進行・説明	介護福祉職が行う会議の意義や目的 会議の構成員とそれぞれの役割
	事例検討	事例検討を行う意義・目的 事例検討会の実践的展開
14	情報の活用と管理	情報の活用と管理 個人情報保護と活用
15	まとめ テスト	後期のまとめ 後期試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 第2版」中央法規	出席率 課題・レポート 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術 I		介護福祉学科/1年	2024/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	6単位(90時間)	必須	三木 春美

## 授業の概要

生活支援における具体的な介護技術を学ぶ。  
 利用者の生活を多角的に支えるためのチームアプローチのあり方などを学ぶ。  
 介護福祉士が行う生活支援の意義と目的を理解する。

- 1) 自立に向けた身じたくの介護
- 2) 自立に向けた移動の介護
- 3) 自立に向けた入浴の介護
- 4) 自立に向けた排せつの介護
- 5) 自立に向けた食事の介護

## 授業終了時の到達目標

利用者の尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人主体の生活の継続ができるよう、根拠に基づいた介護実践を行うことができる。

## 実務経験有無

## 実務経験内容

有

介護施設等で10年の実務経験、介護支援専門員6年の実務経験あり。

## 時間外に必要な学修

事前にテキストを熟読しておくこと。

回	テーマ	内容
1	【自立に向けた身じたくの介護】 生活とは	介護福祉職として、「ひとの生活」の基礎的理解
2	【自立に向けた身じたくの介護】 自立した身じたくとは	疾病や障害があり介護を必要な人の「自立」した身じたくについて学習します。
3	【自立に向けた身じたくの介護】 アセスメント	対象者のアセスメント=情報を集めるグループワークを行ってみましょう。
4	【自立に向けた身じたくの介護】 整容、衣生活の調整	生活のリズムをと整える 健康維持 自分らしさの表現、生活の中の楽しみ
5	【自立に向けた身じたくの介護】 身じたくの介助	利用者の現状を情報として捉える 介護を行う際の確認ポイント
6	【自立に向けた身じたくの介護】 利用者の状態に合わせた介護の留意点	洗顔 整髪 ひげそり
7	【自立に向けた身じたくの介護】 多職種の役割と協働	他職種の役割と介護福祉職との連携 医療 美容・理容師 福祉環境コーディネーター ケアマネジャー
8	【自立に向けた身じたくの介護】 実技テスト	ベッドメイキング 身じたくに関する介護技術
9	【自立に向けた移動の介護】 移動の意義と目的	移動のあり方 介護福祉職のすべきこと 全介助 一部介助

10	【自立に向けた移動の介護】 アセスメント	心身の状況に合わせた介護を行うために 情報収集 利用者を理解する
11	【自立に向けた移動の介護】 安全な移動の介護	歩行のあり方 介護福祉職のすべきこと
12	【自立に向けた移動の介護】 歩行介助の留意点	視覚障がい者への支援方法 ・施設内、施設外
	【自立に向けた移動の介護】 安全な移動・移乗の介護	車いす操作方法 移乗 移動
14	【自立に向けた移動の介護】 移乗時の留意点	全介助・一部介助時の留意点
15	【自立に向けた移動の介護】 福祉用具の意義	公的制度における福祉用具サービス 障害者総合支援法における福祉用具サービス
16	【自立に向けた移動の介護】 多職種連携	移動に関する職種の役割 介護福祉職との連携のあり方
17	【自立に向けた移動の介護】 実技テスト	起居介助 車いす介助 全介助・一部介助
18	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 清潔保持の観点	清潔・入浴の目的 一連の流れ
19	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 多職種連携と介護福祉士としての役割	清潔保持に関する職種の役割 介護福祉職との連携のあり方
20	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 アセスメント	入浴時のアセスメント項目 利用者の状態への理解と関わり方
21	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 状態に合わせた入浴方法	個浴 特浴 (一部・全介助)
22	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 状態に合わせた入浴方法	シャワー浴 清拭・陰部洗浄 (一部・全介助)
23	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 状態に合わせた入浴方法	シャワー浴 清拭・陰部洗浄 (一部・全介助)
24	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 状態に合わせた入浴方法	臥位での足浴
25	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 入浴後の観察	バイタル 水分補給
26	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 ふりかえり	自立に向けた清潔・入浴の介護 ふりかえり
27	【自立に向けた排せつの介護】 排せつの意義と目的	自立した排せつとは 自立した排せつの一連の流れ
28	【自立に向けた排せつの介護】 アセスメント	排せつの介護 心身の状況に応じた介護
29	【自立に向けた排せつの介護】 環境整備	介護職としての環境整備

30	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつ介助1	排せつの一連の流れ		
31	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつ介助2	ベッド上 おむつ交換 尿器 便器		
32	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつ介助3	トイレ介助① トイレ・ポータブル誘導		
33	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつ介助4	トイレ介助② おむつ リハビリパンツ		
34	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつの介助5	歩行可能な利用者の介助 一部介助 半介助 全介助		
35	【自立に向けた排せつの介護】 多職種の役割と協働	関連した多職種の役割 介護職としての排せつの役割		
36	【自立に向けた排せつの介護】 実技テスト	おむつ交換・トイレ介助		
37	【自立に向けた食事の介護】 食事の意義と目的	食事をとるとは 高齢者にとっての食事の意義		
38	【自立に向けた食事の介護】 アセスメント	利用者の状態を把握する上で必要な視点 情報収集		
39	【自立に向けた食事の介護】 食事介助1	自立に向けた食事介助方法		
40	【自立に向けた食事の介護】 食事介助2	全介助の一連の流れ		
41	【自立に向けた食事の介護】 多職種連携の役割と協働	自立した食事につなげるための多職種連携とは		
42	【自立に向けた食事の介護】 実技テスト	ベッド上での食事介助		
43	事例検討1	グループワーク ・食事介助が必要な利用者への支援方法 ・水分不足の利用者への支援方法		
44	事例発表	発表		
45	まとめ、試験	自立に向けた生活支援技術の展開とは		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座 生活支援技術 I 6・II 7・III 8 中央法規 出版 適宜資料 プリント		出席率 期末試験 課題・レポート 実習・実技評価	10.0% 40.0% 10.0% 40.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅱ		介護福祉学科/1年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	6単位(90時間)	必須	三木 春美

## 授業の概要

在宅のあり方を理解し、利用者・家族に対して生活の支援を行うための技術を身につける。  
災害や緊急時など、介護福祉士としての役割を理解することができ多職種協働を行うことができる。

## 1) 生活支援

- 2) 自立に向けた家事の介護
- 3) 応急手当の知識と技術
- 4) 災害時における生活支援
- 5) 人生の最終段階における介護

生活の豊かさを高める観点から余暇時間に行うレクリエーションについて知識・技術を身につける。

- 1) レクリエーション活動援助者の役割
- 2) レクリエーション活動計画の作成及び実施方法

## 授業終了時の到達目標

生活支援とは何かを理解し、適切な家事支援を行うことができる。  
他職種と連携し緊急時の対応を適切に行うことができる。

## 実務経験有無

## 実務経験内容

## 時間外に必要な学修

## 実技練習

回	テーマ	内容
1	【生活支援の理解】 生活支援とは	科目説明 生活支援とは
2	【生活支援の理解】 生活支援の基本的な考え方	ライフサイクルと生活の豊かさ 生活支援のポイント
3	【生活支援の理解】 生活支援と介護過程	介護福祉士が行う生活支援とICFの意義
4	【生活支援の理解】 生活支援と介護過程2	根拠ある生活支援技術 p.19
5	【生活支援の理解】 生活支援とチームアプローチ①	チームアプローチの重要性 生活場面により関わる主な職種
6	【生活支援の理解】 生活支援とチームアプローチ②	ライフステージとチームアプローチのあり方
7	【自立に向けた家事の介護】 自立した家事とは	自立生活を支える家事 一連の流れ
8	【自立に向けた家事の介護】 自立に向けた家事の介護①	洗濯
9	【自立に向けた家事の介護】 自立に向けた家事の介護②	部屋の掃除 風呂掃除 トイレ掃除
10	【自立に向けた家事の介護】 自立に向けた家事の介護③	裁縫 衣類・寝具の衛生管理
11	【自立に向けた家事の介護】 自立に向けた家事の介護④	買い物
12	【自立に向けた家事の介護】 他職種との連携	家事の介護における多職種との連携



	【応急手当の知識と技術】 応急手当について	高齢者に起こりやすい主な事故 その予防の視点
14	【災害時における生活支援】 被災地での活動と生活支援	被災地で活躍する際に知っておくべきこと あるべき支援者の姿
15	【災害時における生活支援】 ハザードマップ作成1	ハザードマップの作成1
16	【災害時における生活支援】 ハザードマップ作成2	ハザードマップの作成2
17	【災害時における生活支援】 まとめ	支援者としてのありかた
18	【休息・睡眠の介護】 睡眠とは	ひとにとって休息・睡眠の意味 日常生活における休息・睡眠の必要性
19	【休息・睡眠の介護】 状態に応じた睡眠の介護	休息・就寝時の介護職としての対応
20	【休息・睡眠の介護】 アセスメント	利用者の心身の状態
21	【休息・睡眠の介護】 環境整備	入眠の準備
22	【休息・睡眠の介護】 多職種連携による支援	不眠時の対応 多職種との連携
23	【休息・睡眠の介護】 まとめ	対応 介助方法
24	【人生の最終段階における介護】	人生の最終段階について
25	【人生の最終段階における介護】	終末期の定義
26	【人生の最終段階における介護】	死を迎えた人の介護 なくなった後の介護・グリーフケア
27	【人生の最終段階における介護】	終末期における本人と家族の意思
28	【人生の最終段階における介護】	痛みの理解
29	まとめ	まとめ
30	【レクリエーション】 レクリエーションの意義と目的	レクリエーションとは
31	【レクリエーション】 行事とは	行事 行事を行う意義
32	【レクリエーション】 福祉レクリエーション	福祉レクリエーション
33	【レクリエーション】 個別レクと集団レク	個別レク 集団レク
34	【レクリエーション】 個別レクリエーションプログラム	プログラム内容
35	【レクリエーション】 集団レクリエーションプログラム	プログラム内容
36	【レクリエーション】 多職種連携	多職種での参加 レクリエーションを行う際の環境面

37	【レクリエーション】 レクリエーション企画	福祉レクリエーション		
38	【レクリエーション】 レクリエーション企画	福祉レクリエーション		
39	【レクリエーション】 プログラム作成	コミュニケーションワーク		
40	【レクリエーション】 プログラム作成	コミュニケーションワーク		
41	【レクリエーション】 アイスブレイキング	アイスブレイキング		
42	【レクリエーション】 実践	実践		
43	【レクリエーション】 実践	実践		
44	【レクリエーション】 実践	実践		
45	【レクリエーション】 まとめ・評価	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 中央法規 出版	介護福祉士養成講座 生活支援技術	出席率 期末試験 課題・レポート 実習・実技評価	10.0% 40.0% 10.0% 40.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術（レクリエーション）		介護福祉学科/1年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	松村 雅史
授業の概要				
介護現場で実施されるレクリエーションについて、実際にやってみることで、利用者に合わせたレクリエーションについて学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>レクリエーションについて、工夫してルールを設定することができる。</li> <li>利用者に合わせたレクリエーションを設定できる。</li> </ul>				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
レクリエーションに必要な準備を行う。				
回	テーマ	内容		
1～3	レクリエーション演習	レクリエーションを実際に行い、留意点について学ぶ。		
4～5	レクリエーション案作成	設定した利用者をもとに、レクリエーション案を立てる。		
6～9	模擬レクリエーションの実施	実際にレクリエーションを支援者として実施する。 模擬レクリエーションの振り返り		
10～14	レクリエーション演習	レクリエーションを実際に行い、留意点について学ぶ。		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
授業レジュメ		実習・実技評価 課題・レポート	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護総合演習 I		介護福祉学科/1年	2024/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	三木 春美
授業の概要				
<p>基本的な知識・技術を実習を通じ実践するための具体的方法を学ぶ。            学生自身の実践内容の分析、考察をし自己覚知へとつなげ、高い専門性と倫理観を養い、多様なニーズに対応できる能力を養う。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>介護施設等の概要と利用者の生活像を実習を通して理解し、介護福祉士としての役割を明確にできる。            他者理解に必要な基本的コミュニケーション方法、マナーを習得する。            自身の実習目標、学習課題について前向きに言語化できる。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
介護実習				
回	テーマ	内容		
1	実習の意義と目的	介護福祉士養成教育のなかで、「介護総合演習」がどのような位置づけになっているかを学習する。		
2	介護実習の種類	介護福祉士養成カリキュラムと介護実習を学び実習 I と実習 II の目的、主な実習内容を学ぶ。		
3	実習準備	介護実習と関連する他科目の学習内容の確認、介護計画書の立案、実習に行く心得を学ぶ。		
4	実習先の特徴と学び 施設理解1	訪問介護、通所介護、通所リハビリテーションのサービス内容、利用者像などを学ぶ。		
5	実習先の特徴と学び 施設理解2	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、養護老人ホームのサービス内容、利用者像などを学ぶ。		
6	実習先の特徴と学び 施設理解3	グループホーム、小規模多機能居宅介護、軽費老人ホーム、障害者支援施設、医療院のサービス内容、利用者像を学ぶ。		
7	実習 I の意義、概要	実習 I の枠組み、理解しておく視点について学習する。		
8	マナー	実習前、中、後での態度や姿勢を学習する。 実習での学習内容をふりかえる。		
9	観察の意義・方法	「観察」の重要性、見るべきポイントを学習する。		
10	情報収集	ケアを行う際に必須な情報収集とは何か?どのように情報を集めるのかを学ぶ。		
11	情報分析シートの書きかた	情報分析シート、プロセスシートの記入方法		
12	記録の重要性	チームケアにおいて記録の重要性を学ぶ。		
	記録の書き方	5W1Hについて学び、記録の記入方法を学習する。		
14	介護モデル	利用者の暮らしの場やコミュニケーションの必要性を学ぶ。		
15	介護モデル	利用者の状態や生活の課題を理解するために必要な観察眼を学ぶ。		

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規 適宜資料 プリント配布	出席率 課題・レポート 実習・実技評価 確認テスト	10.0% 20.0% 60.0% 10.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキスト、配布資料等を用いて今回の学習内容の復習と予

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護総合演習Ⅱ		介護福祉学科/1年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	三木 春美
授業の概要				
<p>基本的な知識・技術を実習を通じ実践するための具体的方法を学ぶ。            学生自身の実践内容の分析、考察をし自己覚知へとつなげ、高い専門性と倫理観を養い、多様なニーズに対応できる能力を養う。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>介護施設等の概要と利用者の生活像を実習を通して理解し、介護福祉士としての役割を明確にできる。            他者理解に必要な基本的コミュニケーション方法、マナーを習得する。            自身の実習目標、学習課題について前向きに言語化できる。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
介護実習				
回	テーマ	内容		
1	実習の意義と目的	介護福祉士養成教育のなかで、「介護総合演習」がどのような位置づけになっているかを学習する。		
2	介護実習の種類	介護福祉士養成カリキュラムと介護実習を学び実習Ⅰと実習Ⅱの目的、主な実習内容を学ぶ。		
3	実習準備	介護実習と関連する他科目の学習内容の確認、介護計画書の立案、実習に行く心得を学ぶ。		
4	実習先の特徴と学び 施設理解1	訪問介護、通所介護、通所リハビリテーションのサービス内容、利用者像などを学ぶ。		
5	実習先の特徴と学び 施設理解2	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、養護老人ホームのサービス内容、利用者像などを学ぶ。		
6	実習先の特徴と学び 施設理解3	グループホーム、小規模多機能居宅介護、軽費老人ホーム、障害者支援施設、医療院のサービス内容、利用者像を学ぶ。		
7	実習Ⅱの意義、概要	実習Ⅱの枠組み、理解しておく視点について学習する。		
8	マナー	実習前、中、後での態度や姿勢を学習する。 実習での学習内容をふりかえる。		
9	観察の意義・方法	「観察」の重要性、見るべきポイントを学習する。		
10	情報収集	ケアを行う際に必要な情報収集とは何か?どのように情報を集めるのかを学ぶ。		
11	情報分析シートの書きかた	情報分析シート、プロセスシートの記入方法		
12	記録の重要性	チームケアにおいて記録の重要性を学ぶ。		
	記録の書き方	5W1Hについて学び、記録の記入方法を学習する。		
14	実習のふりかえり	利用者の安全、快適、自立に配慮できる介護について学習のふりかえりをする。		

15	実習報告	視閲の概要、介護業務等 介護技術 感想・反省点		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規 適宜資料 プリント配布		出席率 課題・レポート 実習・実技評価 確認テスト	10.0% 10.0% 60.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護実習Ⅰ-①		介護福祉学科/1年	2024/前期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	12回	3単位(24時間)	必須	三木 春美
授業の概要				
利用者の人物像の把握及び、日常生活や生活環境、疾病、障害等を理解するために、基本的なコミュニケーション技術を習得し、介護職としての基本的態度、				
授業終了時の到達目標				
施設で生活される利用者の人物像、疾病、障害を理解でき、積極的にコミュニケーションを図ることができる。 基本的な記録物を作成できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~12	【見学実習】	施設概要 利用者の基本情報		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
事前に配布するマニュアル、プリント		出席率 実習・実技評価 課題・レポート	30.0% 50.0% 20.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、配布資料等を用いて今回の学習内容の復習と予習を行う



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護実習Ⅱ-①		介護福祉学科/1年	2024/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	48回	3単位(96時間)	必須	三木 春美
授業の概要				
<p>施設の役割を理解するとともに、様々な生活像及び生活歴を把握し、介護過程の展開を図るための情報を収集し、ニーズを抽出、アセスメント、計画、実施、評価が一連の介護過程の中で実施できるための基本的な能力を養う。</p> <p>利用者の生活のあり方について、個別に考察し、自立支援に基づいて個別ケアを提出することができる技術を身につける。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>施設の役割を理解できる。</p> <p>利用者の生活像、ニーズを把握するための情報収集ができる。</p> <p>自立支援を考えた介護実践ができる。</p> <p>レクリエーションの実践ができる。</p>				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~48	介護実習Ⅱ	<p>見学を通じて介護施設などの概要を理解する。</p> <p>介護職者としての心得を理解する。</p> <p>地域における生活支援の実践について学ぶ。</p>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
事前に配布するマニュアル、プリント		出席率 実習・実技評価 課題・レポート	30.0% 50.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
こころとからだのしくみⅠ		介護福祉学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	川村 久恵
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間の心のしくみとからだのしくみの基礎を学ぶ</li> <li>・介護技術の根拠となる人体の構造・機能を介護実践との関連の中で理解する。</li> <li>・薬の知識について、介護実践との関連の中で理解する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の基本的欲求を理解したうえで、自己実現に向けた介護について考えることができる</li> <li>・学習や動機づけの理論を踏まえて適応の仕組みが理解できる。</li> <li>・介護実践に必要な、人体の構造やボディメカニクスについて理解している。</li> <li>・介護実践に必要な薬の知識について理解している。</li> </ul>				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
復習として、ワークシートの整理を毎回行う(テキストのポイントの確認)、提出物準備行動				
回	テーマ	内容		
1	健康とは何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WHOの健康の定義</li> <li>・健康づくりの概要</li> </ul>		
2	人はなぜ病気になるのか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の判断と健康寿命について</li> <li>・健康を阻害する要因について</li> </ul>		
3	こころのしくみの理解 基本的欲求	介護を必要とする人の基本的欲求を支援する 生理的欲求、安全欲求		
4	こころのしくみの理解 社会的欲求	社会的欲求について 所属・愛情欲求、承認欲求、自己実現欲求		
5	こころのしくみの理解 自己概念	自己概念とは 自己概念に影響する要因、自己実現と尊厳		
6	こころのしくみの理解 国際的取り組み	高齢者のための国連原則について		
7	こころのしくみの理解 「こころ」とは何か	人間のこころの基本的理解 現代心理学の観点から		
8	こころのしくみの理解 脳の仕組み	脳をつくる細胞 細胞の集団がつくる機能		
9	こころのしくみの理解 認知のしくみ・学習	認知とは 学習とは		
10	こころのしくみの理解 記憶・思考のしくみ	記憶とは 短期記憶・長期記憶 思考過程の異常とは 妄想について		
11	こころのしくみの理解 感情・情動のしくみ	感情のしくみ、気分と情動との違いについて 感情の異常の種類		
12	こころのしくみの理解 意欲・動機づけのしくみ	人が行動を起こすときの動機づけとは何か 意欲はどのようにして湧くのか		
	こころのしくみの理解 適応のしくみ①	欲求不満と適応のしくみ ストレス反応		
14	こころのしくみの理解 適応のしくみ②	高齢者の人格とは 適応規制/防衛機制の種類と理解		
15	からだのしくみの理解①	身体の部位の役割① <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞・遺伝</li> <li>2. 脳神経(中枢神経)</li> </ol>		

16	からだのしくみの理解②	身体の部位の役割② 末梢神経、脳神経、脊髄神経		
17	からだのしくみの理解③	身体の部位の役割③ 感覚器		
18	からだのしくみの理解④	身体の部位の役割④ 呼吸器		
19	からだのしくみの理解⑤	身体の部位の役割⑤ 循環器		
20	からだのしくみの理解⑥	身体の部位の役割⑥ 消化器		
21	からだのしくみの理解⑦	身体の部位の役割⑦ 泌尿器		
22	からだのしくみの理解⑧	身体の部位の役割⑧ 骨・筋肉 1)		
23	からだのしくみの理解⑨	身体の部位の役割⑨ 骨・筋肉 2)		
24	からだのしくみの理解⑩	身体の部位の役割⑩ 骨・筋肉 3)		
25	からだのしくみの理解⑪	身体の部位の役割⑪ 生殖器・内分泌のはたらき		
26	からだのしくみの理解⑫	身体の部位の役割⑫ 血液・体液・リンパ		
27	関連する役割、および薬の知識①	1 心身の調和 2 生命の維持と恒常性のしくみ		
28	関連する役割、および薬の知識②	3 介護福祉職に必要な薬の知識		
29	まとめ・復習	1 から30回までのまとめ・復習		
30	期末試験	期末試験とまとめ、解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座 1 1 ことごと からだのしくみ 中央法規		出席率	10.0%	
		授業態度	10.0%	
		確認テスト	80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
こころとからだのしくみⅡ		介護福祉学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	川村 久恵
授業の概要				
基礎知識をもとに利用者の身じたくや移動、食事等の生活を支える介護実践を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
移動、身じたく、食事の生理的・心理的意味を理解し、介護実践に結びつけた援助の方法を考えることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポートの作成</li> <li>・单元ごとの復習</li> <li>・国家試験問題の解答</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	3章 移動に関連したこころとからだのしくみ①	移動のしくみについて		
2	3章 移動に関連したこころとからだのしくみ②	移動に関連したこころとからだのしくみ		
3	3章 移動に関連したこころとからだのしくみ③	心身の機能低下が移動に及ぼす影響		
4	3章 移動に関連したこころとからだのしくみ④	変化の気づきと対応		
5	4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ①	身じたくのしくみ		
6	4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ②	身じたくに関連したこころとからだのしくみ		
7	4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ③	口腔衛生		
8	4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ④	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響		
9	4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ⑤	変化の気づきと対応		
10	5章 食事に関連したこころとからだのしくみ①	食事のしくみ		
11	5章 食事に関連したこころとからだのしくみ②	食事に関連したこころとからだのしくみ		
12	5章 食事に関連したこころとからだのしくみ①	摂食嚥下の5分類と内容		
	5章 食事に関連したこころとからだのしくみ①	心身の機能低下が食事に及ぼす影響		
14	5章 食事に関連したこころとからだのしくみ①	変化の気づきと対応		

15	まとめ 前期末試験	1から15までのまとめ・復習 前期末試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	最新 介護福祉士養成講座11 ころとから だのしくみ 中央法規 介護福祉士国家試験合格度ドリル 中央法規	出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達と老化の理解 I		介護福祉学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	川村 久恵

## 授業の概要

1. 人間の成長と発達・発達課題
2. 老年期の特徴と発達課題

## 授業終了時の到達目標

1. 人間の成長と発達・老年期について理解できる
2. 発達段階に応じた発達課題が理解できる

実務経験有無

実務経験内容

## 時間外に必要な学修

実習やアルバイトを通して高齢者の身体的特徴やかかわり方を理解してほしい。

回	テーマ	内容
1	人間の成長と発達の基礎的知識	成長・発達の考え方
2	人間の成長と発達の基礎的知識	成長・発達の原則・法則
3	人間の成長と発達の基礎的知識	成長・発達に影響する要因
4	人間の発達段階と発達課題	発達理論
5	人間の発達段階と発達課題	発達段階と発達課題①
6	人間の発達段階と発達課題	発達段階と発達課題②
7	人間の発達段階と発達課題	身体的機能の成長と発達
8	人間の発達段階と発達課題	心理的機能の発達
9	人間の発達段階と発達課題	社会的機能の発達
10	老年期の特徴と発達課題	老年期の定義
11	老年期の特徴と発達課題	老化とは
12	老年期の特徴と発達課題	老年期の発達課題
	老年期の特徴と発達課題	喪失体験
14	老年期の特徴と発達課題	老年期をめぐる今日的課題
15	まとめ	まとめ、期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座 1 2 発達と老 化の理解 第2版 中央法規 配布資料	期末試験 出席率	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達と老化の理解Ⅱ		介護福祉学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	川村 久恵
授業の概要				
1. 老化にともなうところとからだの変化と生活 2. 高齢者と健康				
授業終了時の到達目標				
1. 老化に伴う変化と課題が理解できる 2. 高齢者の疾患について知識をもち、身体的・心理的側面にどのようにアプローチすればよいか判断できるようになる 3. 保健・医療・福祉の専門職の一員として連携と協力ができるようになる				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	老化にともなうところとからだの変化と生活	老化にともなう身体的な変化と生活への影響(感覚器系の機能の変化と生活への影響まで)		
2		老化にともなう身体的な変化と生活への影響(血液・循環器系の機能の変化と生活への影響～)		
3		老化にともなう心理的な変化と生活への影響(認知機能の変化)		
4		老化にともなう心理的な変化と生活への影響(知的機能の変化～)		
5		老化にともなう社会的な変化と生活への影響(社会の中での生活上の課題)		
6	高齢者と健康	健康長寿に向けての健康		
7		高齢者の症状・疾患の特徴		
8		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(骨格系・筋系)		
9		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(脳神経系～循環器系)		
10		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(呼吸器系～腎・泌尿器系)		
11		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(内分泌・代謝系、歯・口腔疾患)		
12		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(悪性新生物、感染症)		
		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(精神疾患、その他)		
14		保健医療職との連携		
15	まとめ	まとめ・期末試験		



教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座 1 2 発達と老 化の理解 中央法規	期末試験 出席率 課題・レポート	70.0% 10.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
認知症の理解 I		介護福祉学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	川村 久恵
授業の概要				
1. 認知症の基礎的理解 2. 認知症の症状・診断・治療・予防 3. 認知症を取り巻く状況				
授業終了時の到達目標				
1. 認知症について正しく理解する 2. 認知症当事者の視点から見えるものや取り巻く状況を理解し、具体的な支援策を考えることができる				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
復習として單元ごとのワークシートを仕上げる  次回の授業内容を踏まえてテキストを読んで予習をする				
回	テーマ	内容		
1	認知症の基礎的理解	認知症とは何か		
2		脳のしくみ		
3		認知症の人の心理		
4	認知症の症状・診断・治療・予防	中核症状の理解		
5		生活障害の理解		
6		BPSDの理解		
7		主要なBPSD		
8		認知症の診断と重症度		
9		認知症の原因疾患と症状・生活障害		
10		認知症の治療薬・予防		
11	障害をかかえて生きることへの支援	認知症を取り巻く状況 これまでー今ーこれから		
12		認知症ケアと理念の視点		
		認知症当事者の視点から見えるもの①		
14		認知症当事者の視点から見えるもの②		

15	まとめ	まとめ、期末試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新 理解	介護福祉士養成講座 1 3 認知症の 中央法規	期末試験 授業態度 出席率	80.0% 10.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
認知症の理解Ⅱ		介護福祉学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	
授業の概要				
1. 認知機能障害による生活への影響と認知症ケア 2. 家族への支援 3. 多職種との連携と協働				
授業終了時の到達目標				
1. 認知症の人の特性を理解し、支える家族を含めた支援・サポート体制を考えることができる 2. 認知症の人の生活障害へのケアについて理解する				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	認知症ケアの実際	パーソン・センタード・ケア		
2		認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール(アセスメントツール)		
3		認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール(健康状態のアセスメント)		
4		認知症の人とのコミュニケーション		
5		認知症の人へのケア(食事・排泄ケア)		
6		認知症の人へのケア(入浴・清潔保持・休息と睡眠のケア)		
7		認知症の人へのケア(活動・生きがい・BPSDのケア)		
8		認知症の人への様々なアプローチ		
9		認知症の人の終末期医療と介護		
10		環境づくり		
11	介護者支援	家族への支援		
12		介護福祉職への支援		
	認知症の人の地域生活支援	制度、サービス、機関、地域づくり		
14		多職種連携と協働		
15	まとめ	まとめ・期末試験		

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座 1 3 認知症の 理解 中央法規	期末試験 授業態度 出席率	70.0% 20.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
障害の理解 I		介護福祉学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	川村 久恵

## 授業の概要

1. 障害の基礎的理解
2. 障害者福祉についての理解
3. 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援

## 授業終了時の到達目標

1. 医学的な知識に基づいて障害を理解する
2. 障害のある人の心理的側面や生活面も含めた支援を考えられる

実務経験有無

実務経験内容

## 時間外に必要な学修

回	テーマ	内容
1	障害の概念	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害のとらえ方               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医学モデルと社会モデルという概念</li> <li>2) 障害者基本法の定義</li> </ol> </li> <li>2. ICDHからICFへの変遷               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ICDHでの障害のとらえ方</li> <li>2) ICFでの障害のとらえ方</li> </ol> </li> <li>3. 障害者の概数</li> <li>4. 障害者の定義               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 障害者基本法による定義</li> <li>2) 障害者総合支援法による定義</li> <li>3) 身体障害者の定義</li> <li>4) 知的障害者の定義</li> <li>5) 精神障害者の定義</li> <li>6) 障害児の定義</li> </ol> </li> </ol>
2	障害者福祉の基本理念	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ノーマライゼーション</li> <li>2. リハビリテーション</li> <li>3. インクルージョン</li> <li>4. エンパワメント</li> <li>5. ストレングス</li> <li>6. 国際障害者年</li> <li>7. 障害者権利条約</li> <li>8. アドボカシー</li> </ol>
3	障害者福祉に関連する制度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害者総合支援法</li> <li>2. 障害者差別解消法</li> <li>3. 障害者虐待防止法</li> <li>4. 障害者の就労支援</li> <li>5. 成年後見制度</li> </ol>
4	障害者福祉制度と介護保険制度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害者福祉制度と介護保険制度の違い</li> <li>2. 障害者福祉サービスと介護保険サービスの併用</li> </ol>
5	障害のある人の心理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の欲求</li> <li>2. 適応機制</li> <li>3. 障害受容の過程</li> <li>4. 心理的支援の方法</li> </ol>

6	肢体不自由（運動機能障害）①	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 肢体不自由とは</li> <li>2. 障害の種類</li> <li>3. 障害の原因</li> <li>4. 身体特性の理解</li> <li>5. 障害の原因となるおもな疾患の理解</li> </ol>
7	肢体不自由（運動機能障害）②	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 心理的側面の理解</li> <li>7. 生活面の理解</li> <li>8. 障害の特性に応じた支援</li> </ol>
8	視覚障害	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 視覚障害とは</li> <li>2. 障害の種類</li> <li>3. 障害の原因</li> <li>4. 障害の特性の理解</li> <li>5. 障害の特性に応じた支援</li> </ol>
9	聴覚・言語障害	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聴覚障害 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 聴覚障害とは</li> <li>2) 障害の特性の理解</li> <li>3) 障害の特性に応じた支援</li> </ol> </li> <li>2. 言語障害 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 言語障害とは</li> <li>2) 障害の特性の理解</li> <li>3) 障害の特性に応じた支援</li> </ol> </li> </ol>
10	重複障害	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 重複障害とは</li> <li>2. 障害の原因</li> <li>3. 障害の種類 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 盲ろう重複障害（盲とろう）</li> <li>2) 聴覚と知的の重複障害</li> <li>3) 視覚と知的の重複障害</li> </ol> </li> <li>4. 重複障害児への支援</li> </ol>
11	内部障害①	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心臓機能障害 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心臓機能障害とは</li> <li>2) 障害の原因</li> <li>3) 障害の特性の理解</li> <li>4) 障害の特性に応じた支援</li> </ol> </li> <li>2. 呼吸器機能障害 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 呼吸器機能障害とは</li> <li>2) 障害の原因と症状</li> <li>3) 治療の方法</li> <li>4) 障害の特性の理解</li> <li>5) 障害の特性に応じた支援</li> </ol> </li> </ol>
12	内部障害②	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 腎臓機能障害 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 腎臓機能障害とは</li> <li>2) 障害の原因</li> <li>3) 障害の特性の理解</li> <li>4) 障害の特性に応じた支援</li> </ol> </li> <li>4. 膀胱・直腸機能障害 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 膀胱・直腸機能障害とは</li> <li>2) 膀胱機能障害の治療・管理</li> <li>3) 直腸機能障害の治療・管理</li> <li>4) 障害の特性の理解</li> <li>5) 障害の特性に応じた支援</li> </ol> </li> </ol>

	内部障害③	5. 小腸機能障害 1) 小腸機能障害とは 2) 障害のおもな症状 3) 治療と管理 4) 障害の特性の理解 5) 障害の特性に応じた支援 6. ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 1) 症状と治療 2) 障害の特性の理解 3) 障害の特性に応じた支援 7. 肝臓機能障害 1) 肝臓機能障害とは 2) 障害の原因 3) 障害の特性の理解 4) 障害の特性に応じた支援		
14	重症心身障害	1. 重症心身障害とは 2. 障害の原因と分類 3. 障害の特性の理解 4. 障害の特性に応じた支援		
15	まとめ	まとめ、期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座 1 4 障害の理解 中央法規		期末試験 授業態度 出席率	70.0% 20.0% 10.0%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会人基礎講座 I		介護福祉学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	選択	三木 春美
授業の概要				
就職活動も含めながら社会人となるための基礎力を身につける				
授業終了時の到達目標				
1)3KAN教育(1.自己効力感 2.成長実感 3.学び続ける習慣)により企業が求める人材を育成する 2)基礎学力、専門知識を将来社会において発揮することができるための汎用的能力の育成 3)目標を設定し管理することによって、自己成長を実感させ、将来設計ができるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容をふまえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う				
回	テーマ	内容		
1	・就職活動の世界を知る ・偶然が作る人生	・就職活動の目的、目標を考える ・今まで出会ってきた偶然		
2	・ものの見方 ・考え方	・自分の癖を知る ・ものの見方を広げる		
3	適性検査	適性検査		
4	記憶からたどる	自分自身について知るために、記憶からたどる		
5	文章の書き方と構成の仕方	・文章の書き方について学ぶ ・テーマに沿った文章を構成する		
6	自己分析	・過去/現在/未来の自分から、自分を分析する		
7	自己PR作成	自己PR作成		
8	企業の見つけ方	各学科での業界研究、説明		
9	履歴書の書き方と伝え方	自身の基本情報、趣味を書き出す		
10	志望動機	志望動機を書く		
11	30問30答	30問30答の作成		
12	履歴書、30問30答、自己PR	履歴書、30問30答、自己PRを完成させる		
	プレゼンの基本と応用	自身の自己PRプレゼンテーションを振り返る		
14	話の聴き方、面接の基本を学ぶ	話の聴き方、面接の基本を学ぶ		
15	オンライン面接・グループディスカッション	オンラインでのコミュニケーション方法		

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
就活ゼミ教材 就職の手引	出席率	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日本語Ⅱ		介護福祉学科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	選択	岩谷 奈緒
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士養成科目の内容を理解する為に4技能を伸ばす</li> <li>・国家試験とJLPTに向けて、テスト対策</li> <li>・N1、N2、N3の文法、漢字・語彙、読解の強化</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験を受験する方は、日本語の各分野を修得する</li> <li>・JLPTに合格する</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
授業で配布したプリントで自主的に復習する。				
回	テーマ	内容		
1	第1回 夏休みについて作文とスピーチ・助詞	夏休みについて(作文作成・発表)、助詞「で&を」		
2	第2回 文字語彙⑧・読解	文字・語彙(N1ドリル&模試第8回、N2直前対策第8回、N3直前対策第8回)・読解(N1・N2日本語総まとめ第4週3・4日目、N3必ずできる!JLPT「読解」N3 Level3-9, 10)		
3	第3回 文法⑧・読解	文法(N1ドリル&模試第8回、N2直前対策第8回、N3直前対策第8回)・読解(N1・N2日本語総まとめ第4週5・6日目、N3必ずできる!JLPT「読解」N3 Level3-11, Level4-13)		
4	第4回 文字語彙⑨・読解・語彙と会話(介護施設での車いす移動)	文字・語彙(N1ドリル&模試第9回、N2直前対策第9回、N3直前対策第9回)・読解(N1・N2日本語総まとめ第4週7日目、N3必ずできる!JLPT「読解」N3 Level4-13つづき)、車いす移動リピート(介護で学ぼう!介護の日本語5章)		
5	第5回 文法⑨・読解	文法(N1ドリル&模試第9回、N2直前対策第9回、N3直前対策第9回)・読解(N1・N2日本語総まとめ第5週1・2日目、N3必ずできる!JLPT「読解」N3 Level4-14)		
6	第6回 文字語彙⑩・読解・助詞	文字・語彙(N1ドリル&模試第10回、N2直前対策第10回、N3直前対策第10回)・読解(N1・N2日本語総まとめ第5週3・4日目、N3必ずできる!JLPT「読解」N3Level4-15)、助詞「を&に」		
7	第7回 文法⑩・読解・語彙と会話(介護施設での杖歩行)	文法(N1ドリル&模試第10回、N2直前対策第10回、N3直前対策第10回)・読解(N1・N2日本語総まとめ第5週5・6日目、N3必ずできる!JLPT「読解」N3 Level4-16)、杖歩行リピート(介護で学ぼう!介護の日本語6章)		
8	第8回 文字語彙⑪・読解・助詞	文字・語彙(N1ドリル&模試第11回、N2直前対策第11回、N3直前対策第11回)・読解(N1・N2日本語総まとめ第5週7日目、N3必ずできる!JLPT「読解」N3 Level4-17)、助詞「まで&に」		

9	第9回 文法⑪・読解	文法（N1ドリル&模試第11回、N2直前対策第11回、N3直前対策第11回）・読解（N1・N2日本語総まとめ第6週1・2日目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level 4 - 17つづき）		
10	第10回 文字語彙⑫・読解・語彙と会話（介護施設での食事）	文字語彙（N1ドリル&模試第12回、N2直前対策第12回、N3直前対策第12回）・読解（N1・N2日本語総まとめ第6週3・4日目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level 4 - 18）、食事レポート（介護で学ぼう！介護の日本語第7章）		
11	第11回 文法⑫・読解	文法（N1ドリル&模試第12回、N2直前対策第12回、N3直前対策第12回）・読解（N1・N2日本語総まとめ第6週5・6日目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level 4 - 19）		
12	第12回 文字語彙⑬・読解	文字語彙（N1ドリル&模試第13回、N2直前対策第13回、N3直前対策第13回）・読解（N1日本語総まとめ第6週7日目・N2日本語総まとめ第1週1・2・3日目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level 4 - 20）		
	第13回 文法⑬・読解	文法（N1ドリル&模試第13回、N2直前対策第13回、N3直前対策第13回）・読解（N1日本語総まとめ第1週1・2・3日目・N2日本語総まとめ第1週4・5・6日目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level 5-12・13）		
14	第14回 文字語彙⑭・読解・語彙と会話（介護施設での排泄）	文字語彙（N1ドリル&模試第14回、N2直前対策第14回、N3直前対策第14回）・読解（N1日本語総まとめ第1週4・5・6日目・N2日本語総まとめ第1週7日目・2週1・2日目 N3必ずできる！JLPT「読解」N3Level 6-21） 排泄レポート（介護で学ぼう！介護の日本語第8章）		
15	まとめ 後期期末試験	まとめ 期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・N1ドリル&模試（文字・語彙・文法）、N2・N3直前対策（文字・語彙・文法）、N1文法総まとめ、N2文法総まとめ、N3文法語彙漢字、会話で学ぼう！介護の日本語、介護のことは基本のことは・日本語の助詞		期末試験 出席率 授業態度 課題・レポート	50.0% 15.0% 20.0% 15.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日本語 I		介護福祉学科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	選択	岩谷 奈緒
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士養成科目の内容を理解する為に4技能を伸ばす</li> <li>・国家試験とJLPTに向けて、テスト対策</li> <li>・N1、N2、N3の文法、漢字・語彙、読解の強化</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験を受験する方は、日本語の各分野を修得する</li> <li>・JLPTに合格する</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
授業で配布したプリントで自主的に復習する。				
回	テーマ	内容		
1	第1回 自己紹介・助詞	自己紹介(自己紹介カードを作成・発表)、助詞「は&が」		
2	第2回 文字語彙①・読解	文字・語彙(N1ドリル&模試第1回、N2直前対策第1回、N3直前対策第1回)・読解(N1・N2日本語総まとめ第1週1・2日目、N3必ずできる!JLPT「読解」N3 Level1-1, 2)		
3	第3回 文法①・読解	文法(N1ドリル&模試第1回、N2直前対策第1回、N3直前対策第1回)・読解(N1・N2日本語総まとめ第1週3・4日目、N3必ずできる!JLPT「読解」N3 Level1-3, 4)		
4	第4回 文字語彙②・読解・語彙と会話(介護施設での自己紹介)	文字・語彙(N1ドリル&模試第2回、N2直前対策第2回、N3直前対策第2回)・読解(N1・N2日本語総まとめ第1週5日目、N3必ずできる!JLPT「読解」N3 Level1-5)、自己紹介リポート(介護で学ぼう!介護の日本語)		
5	第5回 文法②・読解	文法(N1ドリル&模試第2回、N2直前対策第2回、N3直前対策第2回)・読解(N1・N2日本語総まとめ第1週6・7日目、N3必ずできる!JLPT「読解」N3 Level1-6, 7)		
6	第6回 文字語彙③・読解・助詞	文字・語彙(N1ドリル&模試第3回、N2直前対策第3回、N3直前対策第3回)・読解(N1・N2日本語総まとめ第2週1・2日目、N3必ずできる!JLPT「読解」N3 Level1-8, 2-1)、助詞「が&を」		
7	第7回 文法③・読解・語彙と会話(介護施設での仕事1日目)	文法(N1ドリル&模試第3回、N2直前対策第3回、N3直前対策第3回)・読解(N1・N2日本語総まとめ第2週3・4日目、N3必ずできる!JLPT「読解」N3 Level2-2)、仕事1日目リポート(介護で学ぼう!介護の日本語)		
8	第8回 文字語彙④・読解・助詞	文字・語彙(N1ドリル&模試第4回、N2直前対策第4回、N3直前対策第4回)・読解(N1・N2日本語総まとめ第2週5日目、N3必ずできる!JLPT「読解」N3 Level2-3)、助詞「に&で」		
9	第9回 文法④・読解	文法(N1ドリル&模試第4回、N2直前対策第4回、N3直前対策第4回)・読解(N1・N2日本語総まとめ第2週6・7日目、N3必ずできる!JLPT「読解」N3 Level2-4, 5)		

10	第10回 文字語彙⑤・読解・語彙と会話（介護施設での洗顔と整髪）	文字語彙（N1ドリル&模試第5回、N2直前対策第5回、N3直前対策第5回）・読解（N1・N2日本語総まとめ第3週1・2目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level2 - 6.7）、洗顔と整髪リピート（介護で学ぼう！介護の日本語）		
11	第11回 文法⑤・読解	文法（N1ドリル&模試第5回、N2直前対策第5回、N3直前対策第5回）・読解（N1・N2日本語総まとめ第3週3・4目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level2 - 8.9）		
12	第12回 文字語彙⑥・読解	文字語彙（N1ドリル&模試第6回、N2直前対策第6回、N3直前対策第6回）・読解（N1・N2日本語総まとめ第3週5・6目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level2 - 12.3-1）		
	第13回 文法⑥・読解	文法（N1ドリル&模試第6回、N2直前対策第6回、N3直前対策第6回）・読解（N1・N2日本語総まとめ第3週7・8目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level3-2.3）		
14	第14回 文字語彙⑦・読解・語彙と会話（介護施設での着脱）	文字語彙（N1ドリル&模試第7回、N2直前対策第7回、N3直前対策第7回）・読解（N1・N2日本語総まとめ第4週1・2目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level3-4.5）着脱リピート（介護で学ぼう！介護の日本語）		
15	第15回 日本語 I 前期末試験・文法⑦	前期末試験、文法（N1ドリル&模試第7回、N2直前対策第7回、N3直前対策第7回）		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	・介護福祉士養成科目の内容を理解する為に4技能を伸ばす ・国家試験とJLPTに向けて、テスト対策 ・N1、N2、N3の文法、漢字・語彙、読解の強化	出席率 課題・レポート 期末試験  出席率	20.0% 15.0% 50.0%  15.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
就職実務		介護福祉学科/1年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	選択	三木 春美
授業の概要				
就職活動についての支援 就職活動に必要なスキルの再認識や再確認、最新の情報の提供を行う				
授業終了時の到達目標				
1. 面接に対する恐怖感をなくす 2. 就職試験で本来の力を発揮できるように継続してスキルアップを目指す				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 印象アップ講座	資料配布、担任動機づけ 印象アップ講座		
2	就職CO動機づけ 自己紹介、自己PR発表	就職CO動機づけ 自己紹介、自己PR発表		
3	挨拶練習	挨拶練習		
4	50問50答①	50問50答練習		
5	挨拶練習	挨拶練習		
6	電話対応、会社訪問、面接ロールプレイング①	電話対応、会社訪問、面接練習		
7	50問50答②	50問50答発表		
8	面接練習①	面接練習①		
9	挨拶練習	挨拶練習		
10	電話対応、会社訪問、面接ロールプレイング②	電話対応、会社訪問、面接練習		
11	グループワーク	NASAゲーム		
12	グループワーク	時事問題		
	挨拶練習	挨拶練習		
14	面接練習②	面接練習②		
15	グループディスカッション	グループディスカッション		

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「就職の手引き」	出席率 授業態度	60.0% 40.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、「就職の手引き」等を見直す